

平成 23 年 1 月 26 日

各 位

西日本シティ銀行

九州地銀初 アジア開発銀行「ウォーター・ボンド」への投資について

西日本シティ銀行（頭取 久保田 勇夫）は、アジアの開発途上国における水関連プロジェクトを支援するために、アジア開発銀行が発行する債券「ウォーター・ボンド」への投資を行いましたのでお知らせします。

1. 投資の背景

当行の地盤である九州・福岡は、アジアとの結びつきが深く、アジアの経済成長は地域発展の重要な要素となっています。

アジアの開発途上国においては、著しい経済成長が見込まれていますが、一方で人口増加や経済成長に伴う水資源の減少も懸念されており、この水問題によって経済成長が阻害される危険性があります。

そこで当行は、アジアの開発途上国が直面している水問題（次頁参照）に対処するプロジェクトを、債券投資を通じて支援することとしました。

2. 投資債券「ウォーター・ボンド」の内容

発行体	アジア開発銀行（ADB：Asian Development Bank）
発行額	30 百万 米ドル（約 25 億円）
受渡日	平成 23 年 1 月 26 日
期間	5 年
資金使途	アジア・太平洋地域の開発途上国におけるさまざまな水関連プロジェクトに活用し、水資源の統合的管理に向けた ADB の政策「Water for All」を支援。
格付け	Aaa（ムーディーズ） / AAA（スタンダード&プアーズ、フィッチ）

特徴 1 資金使途を社会貢献事業に特定したインパクト・インベストメントである
企業の CSR（Corporate Social Responsibility、社会的責任）を考慮した投資である SRI（Socially responsible investment）と比べ、社会貢献事業により直接的に投資する「Impact Investment」です。

特徴 2 投資資金の貢献度を確認できる
ADB は、水関連プロジェクトに資金を提供するだけでなく、独立した部署がプロジェクトの評価を行いますので、投資家は、投資した資金が社会貢献につながっているのかどうかを確認することができます。

以 上

《 本件に関するご照会先 》
総合企画部 環境室 笠目（かさめ） Tel 092-461-1777

〔ご参考〕アジアの開発途上国が抱える水問題

- 人口増加に伴い水使用量が増加し、水資源が枯渇する。
- 経済発展に伴う生活スタイルの変化により、人口増加以上に水使用量が増加し、水資源の枯渇がさらに進む。
- 急速な都市化や産業発展に水インフラの整備が追いつかず、未処理の排水が増加して水質汚染が拡大し、安全に利用できる水資源が損なわれる。
- 水インフラの整備が十分でなく、貴重な水資源が有効に使われていない。
(給水途中での漏水防止、下水の浄化処理による再利用、貯水 など)